

たどく
にほんご多読ボックス

あか げ

赤毛クラブ

コナン・ドイル [原作]

NPO多言語多読 [監修]

Taishukan
Japanese
Readers

Level

4



TAISHUKAN

にほんご^{たどく}多読ボックス
Taishukan Japanese Readers

Level

4

あ か げ
赤毛クラブ

コナン・ドイル ^{げんさく} [原作] ^{げんだい} (原題: *The Red Headed League*)

^{みやじまきょうこ} ^{かんやく}
宮島京子 [簡約]

^{たげんご} ^{たどく} ^{かんしゅう}
NPO多言語多読 [監修]

^{たん} ^{ゆうじゆん} ^{さしえ}
唐宇君 [挿絵]

大修館書店



いち

秋のある日、僕がシャーロック・ホームズの家を訪ねると、ホームズは赤い髪の男と熱心に話をしているところだった。

「いい時に来てくれたね、ワトソン」と、ホームズはまじめな顔で言った。

「ウィルソンさん、こちらは友達の方のワトソンです。これまでもいろいろな事件をいっしょに考えてきたんですよ。今回も私を助けてくれると思います」

男は立ち上がって挨拶をし、小さな目で僕の方を見た。その男の髪は燃えるように赤かった。

「ワトソン、こちらはウイルソンさんだ。ウイルソンさん、もう一度話してくれませんか。ワトソンにも聞いてもらいたいし、私も、もう一度聞いてみたいんです」

赤毛の男ウイルソンは、上着のポケットから汚れた新聞を取り出して、こちらに見せた。灰色のズボンと上着、古くて汚い靴。太っているために動きが遅い。燃えるような赤い髪と不満そうな顔以外には、特に変わった点はない。普通の男だった。

ホームズは、男を観察する僕の様子を見て笑った。

「ワトソン。ウイルソンさんは、手を使う仕事をしていたことがあると思うよ。それから、中国へ行ったことがある。それに、最近たくさん書く仕事をしたようだね」

ウイルソンはびっくりして椅子から立ち上がり、ホームズを見つめた。

「どうしてわかるんです？ 確かに私は、昔、船を造る仕事をしていたんです」

「あなたの手を見ればわかりますよ。右手が左手より大きい。右手をよく使う仕事をしていたから、そちらの方が大きくなったんでしょう」

「それじゃあ、なぜ私が中国へ行ったことがあるってわかったんですか」

…後略…

あか げ
赤毛クラブ

かんたん しごと たか きゅうりょう あか げ だんせい
「簡単な仕事で高い給料。ただし赤毛の男性だけ」

— きみょう しごと かく なぞ めいたんてい
— 奇妙な仕事に隠された謎とは。名探偵シャーロック・
ホームズが鮮やかに事件を解決。イギリスの作家コナン・
ドイルの名著。

The Red-Headed League

“A simple and easy but high-paying job, only for red-headed males!” — What is hidden in the job offer? Sherlock Holmes solves the mystery brilliantly. A masterpiece by Conan Doyle, a 19th-century English author.



0	入門	Starter
1	初級前半	Beginner
2	初級後半	Elementary
3	初中級	Pre-Intermediate
4	中級	Intermediate
5	中上級	Pre-Advanced
